

日々の暮らしで見つけたもの

様々な顔をもつ国が人生を豊かでユニークなものにしてくれる。

関西帰国生親の会かけはし 澤本 由紀子

私の夫は主に海外で仕事をする日本企業の会社員である。彼の海外勤務に伴い、ベトナムと中国で暮らし、現在はオランダ・アムステルダムに住んでいる。今日はここ、オランダのことを少し紹介したい。

美しい“花の国”

運河の町アムステルダムには1200以上の橋がある。初夏になるとその多くの欄干に花が掛けられるのだが、実はこれ、橋上の不法駐輪をなくするという意図があるそうだ。そういえば、住宅地の街路樹の足元や歩道脇にも近所の人が花を植えているが、これも不法駐車や犬のトイレ防止らしい。なんとも穏やかでセンスが良い。



欄干に花がかけられた橋

短い夏が過ぎると長く暗い冬の到来。イルミネーションでなんとか明るさを保ち、年が明けるとチューリップシーズンがやってくる。アムステルダムでは毎年1月中旬にシーズンの始まりを祝う「ナショナルチューリップデー」が開かれる。無料でもらえる20万本のチューリップを求めて広場いっぱい人が集まる。私も2、3

時間並んで袋いっぱいのチューリップをもらってきた。スーパーで2束(20本弱)5ユーロ(約850円)で買えるのに、この日のチューリップはなぜか特別なのだ。

そして2月になるとあちこちの地面からクロッカスの花が顔を出し始める。まだまだ寒いが、「もうすぐ春」と表情が緩む。この時期、オランダの学校では「クロッカスブレイク」という1週間の休暇がある。長い冬、ひと息入れて乗り切ろうというものらしいが、クリスマス休暇が終わったばかりなのと思うのは私だけか？ 休暇が終わり、クロッカスが満開になる頃から、水仙、菜の花、桜、ムスカリそしてチューリップと次々咲き始め、最高に美しい季節がやってくる。



チューリップ畑

低地の国の環境対策

国名はオランダ語でNederlandという。これは「低地の国」という意味だが、その名の通り国土の約25%は海拔0メートル以下である。国土の北西は北海に面し、国中に運河や川が流れる。運河や川沿いの道を走っていてふと横を